

問1 日本の都道府県別の農業産出額において、品目別の割合を示した統計資料のうち、畜産の割合が約52.5%と過半数を占め、一方で米の割合が約12.2%にとどまっているという特徴を持つ都道府県はどこですか。（2016年 岩手県公立入試 類似）

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 新潟県 | 2. 北海道 | 3. 宮崎県 | 4. 千葉県 |
|--------|--------|--------|--------|

問2 2001年から2018年にかけての北海道の酪農に関する統計では、飼育戸数が9640戸から6140戸へと大幅に減少する一方で、生乳生産量は3640.7千㍏から3965.2千㍏へと増加しています。また、100頭以上の牛を飼育する戸数や搾乳ロボットの導入数も大きく伸びています。このような北海道の酪農で見られる変化の説明として、最も適切なものはどれですか。（2021年 熊本県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 環境保護の観点から機械の使用を制限し、1戸あたりの飼育頭数を減らす取り組みが進んでいる。 | 2. 労働力不足を補うために、経営規模の拡大や搾乳ロボットの導入による機械化が進んでいる。 | 3. 乳製品の需要低下に合わせ、手作業を中心とした小規模な家族経営への転換が進んでいる。 | 4. 飼育戸数の減少に比例して全体の生産量も減少し、酪農から畑作への転換が進んでいる。 |
|---|---|--|---|

問3 北海道の農業は、農業従事者一人あたりの耕地面積が非常に広いことが特徴です。このような土地条件のもとで行われている農業のあり方について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2017年 福岡県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 限られた土地から高い収益を得るため、ビニールハウスなどを活用した施設園芸農業が中心となっている。 | 2. 土地の生産性を高めるために、多くの労働力を投入する労働集約的な稲作が広く行われている。 | 3. 寒冷な気候による被害を防ぐため、耕地面積を小さく抑え、小規模で多品目な栽培を行っている。 | 4. 広大な農地を効率的に管理するため、大型機械を活用した大規模な機械化農業が展開されている。 |
|---|--|---|---|

問4 北海道の中央南部に位置し、石狩低地帯の東側から南の襟裳岬方面へと南北に連なる険しい山脈の名称として、最も適切なものを選びなさい。（2024年 岡山県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 飛騨山脈 | 2. 赤石山脈 | 3. 日高山脈 | 4. 奥羽山脈 |
|---------|---------|---------|---------|

問5 北海道の地形的特徴について述べた文として、正しいものを次の記述から選びなさい。（2024年 岡山県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 石狩低地帯の東側には日高山脈が南北に走り、地域の地理的境界線となっている。 | 2. 十勝平野の西端には赤石山脈が位置し、冬の季節風を遮る役割を果たしている。 | 3. 襟裳岬から北へ向かって飛騨山脈が延びており、道内最高峰の山々が連なっている。 | 4. 石狩低地帯の西側には奥羽山脈が連なり、大規模な稲作地帯を形成している。 |
|--|---|---|--|

問6 2018年の統計において、畑作の農家一戸あたりの耕地面積を比較すると、全国平均が5万平方メートル未満であるのに対し、北海道は約20万から25万平方メートルという圧倒的に高い数値を示しています。このような広大な土地で効率よく耕作を行うために、北海道の農業で一般的に取り入れられている手法として最も適切なものはどれですか。（2021年 岩手県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---------------------------------------|--------------------------------------|--|
| 1. ビニールハウスなどの施設を大規模に建設し、一年中同じ作物を育てる温室栽培の手法 | 2. 豊富な労働力を一箇所に集中させ、手作業によるきめ細かな管理を行う手法 | 3. 大型の機械を導入し、少ない人数でも広範囲の作業を短時間でこなす手法 | 4. 土地を細かく区画分けし、多種類の作物を少量ずつ組み合わせる栽培する手法 |
|--|---------------------------------------|--------------------------------------|--|

問7 1890年代後半から現代にかけての石狩川流域における土地利用の変化について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2021年 茨城県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. かつて広大だった農地が、自然保護の観点から国主導で大規模な湿地へと復元された | 2. 明治時代には流域の大部分を占めていた湿地が、開発とともに減少し、農地や市街地へと変化した | 3. 市街地を拡大させるため、もともと存在した森林をすべて取り除き、大規模な泥炭地へと造り替えた | 4. 泥炭地と呼ばれる湿地は、地盤沈下を防ぐ目的から、明治時代と同じ面積が現在も維持されている |
|---|---|--|---|

問8 世界遺産に登録されている知床では、多くの観光客が訪れる一方で、自然環境を破壊しないための対策が取られています。湿原や高山植物が広がるエリアに「木道」が設置されている主な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2021年 千葉県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 大雨が降った際に地面の侵食を防ぎ、土砂が海へ流出するのを食い止めるため | 2. 観光客が地面を直接踏み固めて、貴重な植物の成長を妨げないようにするため | 3. ヒグマなどの野生動物が、人間の歩行ルートに侵入できないように物理的に遮断するため | 4. 周辺の森林から切り出された木材の輸送を効率化し、地元の林業を活性化させるため |
|--|--|---|---|

問9 冬の北海道において、流氷が地域の産業や生活に与えている側面について述べたものとして正しいものはどれですか。（2026年 愛知県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 海面が氷で覆われることで魚の回遊が促進されるため、冬の時期にオホーツク海での大規模な漁船漁業が最も盛んになる。 | 2. 氷の重みを利用して港の海底を深く削り取る天然の浚渫（しゅんせつ）効果があるため、大型船の入港を助けている。 | 3. 氷を割って進む砕氷船の運航や流氷の上を歩く体験など、冬の貴重な観光資源として活用されている。 | 4. 流氷に含まれる豊富な塩分を精製して塩を作る工場が沿岸部に多く建設され、冬の主要な地場産業となっている。 |
|--|--|---|--|

問10 北海道の都市である根室市と札幌市の気象統計を比較すると、夏季（特に6月から8月にかけて）の根室市の日照時間は札幌市よりも著しく短いことがわかります。この要因となっている気象現象を何といいますか。（2019年 静岡県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------------|-------|--------|-----------|
| 1. ヒートアイランド現象 | 2. 海霧 | 3. やませ | 4. フェーン現象 |
|---------------|-------|--------|-----------|

問11 北海道東部の太平洋側において、夏に発生する濃霧がもたらす低温や日照不足といった気候条件に適応するために、この地域で古くから発展してきた農業の特徴はどれですか。（2024年 鹿児島県公立入試 類似）

- | | | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|--|
| 1. 冷涼な気候でも育つ牧草を利用し、乳牛を育てる大規模な酪農を行う。 | 2. 山地を切り開いて段々畑を作り、水はけを良くして果樹栽培を行う。 | 3. 温暖な気候が必要な米の品種改良を進め、広大な平野で二毛作を行う。 | 4. 夏の涼しさを利用して、東京などの大消費地向けにレタスなどの高原野菜を栽培する。 |
|-------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|--|

問12 北海道の北東に位置する国後島などの北方領土をめぐる、日本政府の立場や現状についての説明として正しいものはどれか。（2019年 岡山県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 北海道の根室半島から最も遠い位置にあるため、現在はロシアとの間で共同統治を行うことで合意している。 | 2. 日本固有の領土であるが、第二次世界大戦終結直後から現在までロシアによって法的根拠なく占拠されている。 | 3. サンフランシスコ平和条約において日本が放棄した千島列島の一部であり、現在は国際連合の管理下にある。 | 4. 日露和親条約においてロシア領と決められたが、日本は歴史的な経緯から返還を求めている。 |
|--|---|--|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 北海道	広大な土地を活かした大規模な農業が展開されており、特に十勝平野や根釧台地などを中心に乳牛や肉用牛の飼育が盛んです。そのため、農業産出額の構成では畜産が5割を超えるという、他県にはあまり見られない独特の構成比を示しています。米どころとして知られる新潟県などとは対照的な構成です。
問2	答え 2 労働力不足を補うために、経営規模の拡大や搾乳ロボットの導入による機械化が進んでいる。	北海道の酪農では、従事者の高齢化や後継者不足を背景に飼育戸数自体は減少していますが、1戸あたりの飼育頭数を増やす「経営規模の拡大」や、搾乳ロボットなどの最新設備を導入する「機械化」を進めることで、少ない人数でも効率的に生産できる体制が整えられています。その結果、戸数が減っても全体の生乳生産量は維持・増加する傾向にあります。
問3	答え 4 広大な農地を効率的に管理するため、大型機械を活用した大規模な機械化農業が展開されている。	北海道の農業は、一人あたりの耕地面積が広いことから、人力による作業ではなく機械の力を借りる必要があります。そのため、大型トラクターなどの導入が進んでおり、他地域に見られる労働集約的な農業や施設園芸農業とは異なり、広大な土地を少人数で管理する大規模な機械化農業が確立されています。
問4	答え 3 日高山脈	北海道の南部に位置するこの山脈は、その陰しさから地域の交通や気候を分ける地理的境界線として機能しています。選択肢にある飛騨山脈や赤石山脈は中部地方（日本アルプス）に位置し、奥羽山脈は東北地方の中央を南北に走る山脈であるため、北海道の地形としては日高山脈が正解となります。
問5	答え 1 石狩低地帯の東側には日高山脈が南北に走り、地域の地理的境界線となっている。	日高山脈は石狩低地帯の東側に位置しており、北海道を東西に分ける大きな壁のような役割を果たしています。他の選択肢に含まれる山脈は、いずれも本州に位置するものです。奥羽山脈は東北地方、飛騨山脈（北アルプス）や赤石山脈（南アルプス）は中部地方の山脈であり、北海道の地形説明としては誤りです。
問6	答え 3 大型の機械を導入し、少ない人数でも広範囲の作業を短時間でこなす手法	北海道は明治時代以降の開拓の歴史的背景から、一戸あたりの耕地面積が他都府県に比べて非常に広いという特徴があります。これほど広大な面積を家族などの少人数で管理するためには、トラクターやコンバインといった大型の機械による作業の効率化が不可欠です。これを大規模・機械化農業と呼び、労働力不足を補いながら高い生産性を実現しています。
問7	答え 2 明治時代には流域の大部分を占めていた湿地が、開発とともに減少し、農地や市街地へと変化した	石狩川流域の変遷を見ると、明治時代（19世紀末）には非常に広い面積を占めていた湿地が、昭和から平成へと時代が進むにつれて大幅に減少していることがわかります。この変化は、北海道の開拓に伴って湿地の排水・土地改良が進められた結果であり、湿地だった場所は食料供給を支える農地や、札幌市などの都市を支える市街地へと転換されてきました。
問8	答え 2 観光客が地面を直接踏み固めて、貴重な植物の成長を妨げないようにするため	知床のような貴重な自然環境では、観光客が自由に歩き回ると足元の植物が踏み荒らされたり、土壌が踏み固められて植物が育たなくなったりする「踏みつけ」の被害が発生します。木道を設置することで観光客の動線を限定し、環境保護と観光利用の両立（エコツーリズム）を図っています。
問9	答え 3 氷を割って進む砕氷船の運航や流氷の上を歩く体験など、冬の貴重な観光資源として活用されている。	流氷は船舶の航行を妨げたり漁業を一時的に休止させたりする側面もありますが、一方で北海道を象徴する「観光資源」としての価値が高まっています。網走や紋別での砕氷船ツアー、知床での流氷ウォークなどは、冬の北海道観光の大きな柱となっています。
問10	答え 2 海霧	北海道の太平洋側に位置する根室市や釧路市では、夏に発生する「海霧（移流霧）」の影響を強く受けます。暖かく湿った空気が親潮の冷たい海面によって冷やされて発生するこの霧は、長い時には数日間にもわたって沿岸部を覆うことがあり、夏場の日照時間を大幅に減少させる直接的な原因となっています。一方、内陸や日本海側に位置する札幌市などはその影響を受けにくいため、日照時間に大きな差が生じます。
問11	答え 1 冷涼な気候でも育つ牧草を利用し、乳牛を育てる大規模な酪農を行う。	道東の太平洋側では、夏の濃霧による日照不足や低温（冷害）の影響で稲作が困難でした。そのため、冷涼な気候でも育つ牧草を栽培し、それを飼料として牛を育てる酪農が発展しました。特に根釧台地などは、日本を代表する酪農地帯として知られています。
問12	答え 2 日本固有の領土であるが、第二次世界大戦終結直後から現在までロシアによって法的根拠なく占拠されている。	1855年の日露和親条約において、国後島を含む北方四島は日本の領土として確認されました。それ以降、一度も外国の領土となったことがない「日本固有の領土」ですが、1945年の終戦直後に当時のソ連（現在のロシア）によって占拠されました。日本政府は、サンフランシスコ平和条約で放棄した「千島列島」には北方四島は含まれないという立場をとっており、ロシアに対して一括返還を求めています。